

## 人権について考えたこと

北海道 小樽市立銭函中学校 1年  
平方 愛由梨 (ひらかた あゆり)

最近、クラスでちょっとしたトラブルがありました。きっかけは、ある友達が小学校の卒業アルバムの写真をスマートフォンで撮影して、グループラインに送ったことでした。最初のうちは「懐かしい」「このときの顔、やばい」と笑いながら盛り上がっていましたが、ある子が「それ、見せないでほしかった」と言ったことで場の雰囲気が一気に変わってしまいました。

写真を送った子は「悪気はなかった」と言いましたが、その言い方が少し強く、そこから小さな言い合いに発展しました。周りの子たちも「そんなの気にしすぎだよ」という意見と「嫌だって言ってるんだからやめなよ」という意見に分かれ、教室全体が少しギスギスした空気になりました。

私はそのとき、どちらの気持ちもわかる気がしました。送った子はただ思い出を共有したかっただけだと思いますし、嫌だと感じた子の気持ちも理解できます。家に帰ってからも何だかモヤモヤした気持ちが残り、どう考えたらよいのかわからなくなってしまいました。そこで母に「人権ってどんなもの？」と聞いてみました。

母は「人には、自分のことを自分で決める権利があるんだよ。たとえ悪気がなくても、相手が嫌だと感じたら、その気持ちを大事にすることが思いやりなんだよ」と話してくれました。その言葉を聞いて、私は「なるほど」と思いました。私はこれまで「人権」と聞くと、戦争や差別のニュースで出てくる大きな問題ばかりをイメージしていました。しかし、実は私たちの日常生活の中でも、人権はとても身近なものとして関わっているのだと気づいたのです。

たしかに、自分が大丈夫だと思うようなことでも、相手がどう感じるかは分かりません。自分がいいことだと思って悪気なくやったことが、実は誰かを深く傷つけてしまうかもしれません。だからこそ、「これ、見せていいかな」と一度立ち止まり、相手の気持ちを考えてから行動することが大切だったのだと思います。

特に SNS や LINE などのネット上でのやり取りは、便利で楽しい反面、言葉や

写真が一瞬で多くの人に広まってしまう怖さがあります。たとえ本人に悪気がなくても、相手にとってはプライバシーを侵害されたり、恥ずかしい思いをさせられたりすることがあります。受け取り方は人によって違い、冗談のつもりがじめのように感じられてしまうこともあります。私は今回の出来事を通して、ネット上での軽い気持ちの行動でも、人権に関わる大きな問題になり得るのだと実感しました。

この出来事があってから、みんなでどうすればよかったのかを話し合いました。「送る前に本人に確認すればよかった」「嫌だと言われたらすぐに消すべきだ」といった声を出し合ううちに、だんだんと前向きな雰囲気になっていきました。私はこのことをきっかけに、クラス全体が以前よりも相手の気持ちを考えて行動するようになり、少し成長できたように感じています。

人権とは、誰もが安心して自分らしく生きるために必要な大切な権利です。それを守るためには、特別なことをする必要はなく、日常の小さな場面で思いやりを持って行動することが第一歩なのだと思います。相手がどう感じるかを想像すること、嫌だと伝えてくれた気持ちを尊重すること。それが人権を守ることにつながるのだと実感しました。

私は今回の経験を通して、「自分の言葉や行動に責任をもつ」ということの重さを学びました。これから先もきっと、友達や周りの人と意見がぶつかることはあると思います。しかし、そのときに「人権」という視点を思い出せば、相手を尊重する行動を選べるのではないかと思います。私はこれからも、自分の言葉や行動に気をつけて、周りの人を大切にできるようにしたいです。そして、小さな思いやりを積み重ねて、みんなが安心して過ごせるクラスをつくっていきたいと思います。